

米国生まれの日本育ち 生産・物流シミュレータ
FACTOR/AIM ユーザ企業紹介

株式会社セイノー情報サービス 様

シミュレーションで物流センターから無駄を排除 企業競争力を高めるロジスティクスソリューション

ストック型からフロー型へと変化する物流。中でも物流センターには、刻々と変化するビジネス環境への即応とローコストオペレーションが強く求められている。そんな物流センターの庫内業務改善のために、物流ITソリューションベンダーの草分けであり先端企業であるセイノー情報サービスが選択した答えは、FACTOR/AIMによるシミュレーションだった。



ソリューション開発部
 物流コンサルティングチーム
 早川 典雄 氏

人と荷の動きをシミュレーションし 短期間で効果的な庫内改善策を立案。

物流センターの商品や要員の配置を効率的にしたい、新製品が出るたびに变化する状況に合わせてすばやく対応したい…そんなお客様企業の要望に応えるためにセイノー情報サービスでは、物流コンサルティングツールに、FACTOR/AIMを採用。物流M&S (Modeling & Simulation) サービスとして、短納期での的確な業務改善策の立案を実現している。

「これまでの物流センターの業務改善は、経験ベースでの予測や部分的な計算をもとに、まず実際に動かしてみて、効果を確かめるものが主でしたが、これでは手間と時間、そして失敗のリスクが大きくなりがちでした」

そう語るのは物流コンサルティングチームの早川典雄次長。

「FACTOR/AIMを利用すれば、現状のモデルをもとにしてレイアウトや作業シフトなどを、何度でも検証できます。これにより、短期間で正確に業務改善できるのです。実際に弊社内での部品キット作業をシミュレーションした場合、従来の手法よりも圧倒的に短い期間で効果を上げることが可能でした」

物流センター全体、そして生産や販売まで を包括したソリューションへ。

さらにFACTOR/AIMのメリットは、プロジェクトの期間短縮だけではない。入荷から格納、出荷までのすべての物流センター機能をトータルに改善できること。リスクなしにトライ&エラーを繰り返せるので、思い切った改善策も検討できること。アニメーションによる視覚化で作業当事

者のみならず、関係者全員の理解が得られやすいこと。これらによって、物流センターの生産性が向上。お客様企業の競争力向上へとつながっていく。

「物流センター内の活動を細分化することで、ABC (アクティビティ・ベースド・コストリング) を実現するなど、シミュレーションには新しい可能性があります。逆にお客様から、こうしたらどうだろうと提案をいただくこともしばしばです」と、早川氏が語るように、シミュレーションの効果は物流センターの外へと広がりつつある。

今後、生産から販売までの全領域で物流に特化したITソリューションを提供していくセイノー情報サービスでは、FACTOR/AIMの役割がますます大きなものになっていくだろう。



物流M&SサービスでのFACTOR/AIM使用例

株式会社セイノー情報サービス

設立	昭和59年3月1日
従業員数	398名 (平成15年4月1日現在)
売上高	108億円 (平成14年3月期)
提供サービス	物流コンサルティングサービス、物流センターシステム構築サービス、物流ゲートウェイサービス、EC物流連携サービス、トータル物流決済サービス、ロジスティクスアウトソーシングサービス その他

詳しくはこちらまで▶

www.kke.co.jp/csrp/  株式会社 構造計画研究所®

数理技術部 シミュレーション技術室

〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3 TEL. 03-5342-1124 FAX. 03-5342-1224

※CSRは構造計画研究所の登録商標です。※記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。